

2026年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年4月10日

上場会社名 SUMINOE株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3501 URL https://suminoe.co.jp/  
 代表者(役職名) 取締役社長 (氏名) 永田 鉄平  
 問合せ先責任者(役職名) 執行役員経営企画室部長 (氏名) 水野 明秀 (TEL) 06-6251-6803  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年5月期第3四半期の連結業績(2025年6月1日~2026年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年5月期第3四半期	79,091	3.1	1,315	△11.8	1,623	48.4	△30	—
2025年5月期第3四半期	76,735	△0.6	1,490	△31.9	1,093	△56.2	85	△91.9

(注) 包括利益 2026年5月期第3四半期 3,280百万円(298.4%) 2025年5月期第3四半期 823百万円(△70.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年5月期第3四半期	△2.27	—
2025年5月期第3四半期	6.38	—

※当社は2025年3月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年5月期第3四半期	96,563	39,663	34.3
2025年5月期	94,976	37,163	32.8

(参考) 自己資本 2026年5月期第3四半期 33,089百万円 2025年5月期 31,181百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年5月期	—	40.00	—	20.00	—
2026年5月期	—	21.50	—	—	—
2026年5月期(予想)	—	—	—	18.50	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

配当予想の修正につきましては、本日公表いたしました「2026年5月期通期業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※当社は2025年3月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施したため、2025年5月期の1株当たり期末配当金につきましては、当該株式分割の影響を考慮した金額を記載し、年間配当金合計は「—」として記載しております。株式分割を考慮しない場合の2025年5月期の期末配当金は40円00銭、年間配当金は80円00銭となります。

3. 2026年5月期の連結業績予想(2025年6月1日~2026年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	106,000	1.2	2,200	△26.7	2,500	△0.6	400	△40.3	30.17

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

業績予想の修正につきましては、本日公表いたしました「2026年5月期通期業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 一社(社名) 一、除外 1社(社名) 蘇州住江織物有限公司

※詳細は、添付資料11ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年5月期3Q	15,364,324株	2025年5月期	15,364,324株
② 期末自己株式数	2026年5月期3Q	2,097,906株	2025年5月期	2,119,604株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2026年5月期3Q	13,257,720株	2025年5月期3Q	13,379,682株

※当社は2025年3月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、不確定な要素を含んでおります。実際の業績は、今後の様々な要因によって予測値と異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	P. 2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	P. 2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	P. 6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 7
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 9
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	P. 9
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	P. 10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 11
(継続企業の前提に関する注記)	P. 11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 11
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	P. 11
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	P. 11
(セグメント情報)	P. 12

## 1. 経営成績等の概況

### （1）当四半期連結累計期間の経営成績の概況

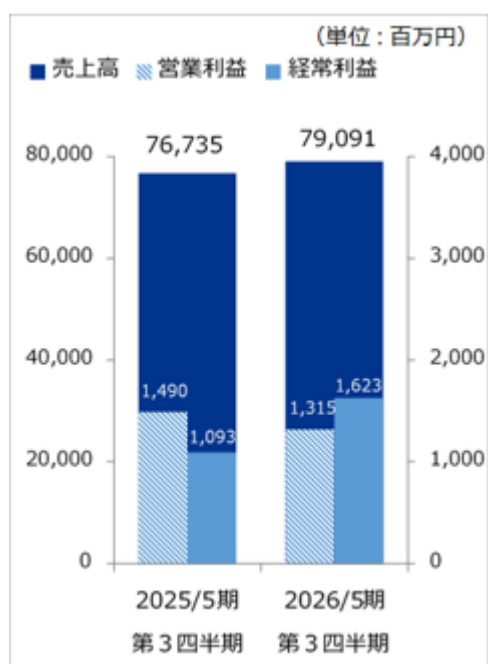
当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善などを背景に、景気は緩やかな回復基調を維持しました。一方、継続的な物価上昇により個人消費に鈍さがみられ、また、不安定な国際情勢のなか、米国の通商政策や地政学的リスクの継続による影響など、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社グループ事業に関連のあるインテリア業界において、国内の新設住宅着工戸数は前年同期比6.1%減、非住宅分野では着工床面積が同10.5%減となりました。また、自動車業界において、国内の日系自動車メーカーの生産台数は前年同期比1.1%減となりました。海外において、生産台数は増加し前年同期を上回りました。

当社グループは、中長期経営目標「SUMINOE GROUP WAY 2022～2024～2027」の後半3ヵ年「STEP II（2025～2027）」の方針の下、実力の底上げを確実に進める期間と位置づけ、各種施策を推進しております。

当第3四半期連結累計期間は、自動車・車両内装事業の自動車関連では、量産を開始したメキシコ合成皮革工場において、顧客のニーズに対応する高品質な製品を安定的に供給するための体制構築に引き続き注力いたしました。一方、米国の通商政策の不確実性に伴う自動車メーカーの生産計画変更や新たな得意先からの受注増加が生産効率の悪化を招いており、これらの影響に対応するため、技術支援を含めた改善活動も進めております。また、これまで機能資材事業で扱う繊維系暖房商材の主生産拠点であったベトナム工場で、自動車向けカーペット及びカーマットの量産稼働を推進するなど、ベトナム工場の採算性向上と自動車内装材の世界最適供給体制の強化に取り組んでおります。車両関連では、製販一体となって開発・生産体制の維持向上を図ることで、鉄道・バス事業者の利用客数増加に伴う需要に着実に対応いたしました。インテリア事業においては、中級ゾーンのオーダーラグシリーズ「Epilogue（エピログ）」を投入し、すでに展開している高級ゾーンの「itten（イッテン）」、最高級ゾーンの「REI（レイ）」とあわせて、中高級ゾーンに対応する付加価値型製品群のラインナップ拡充による顧客への訴求力向上を図るとともに、新たな販路へ展開する施策を実施し、さらなるSUMINOEブランドの認知向上に取り組みました。機能資材事業では、近年の季節動向を鑑みて、春夏向け家電関連商材を上市いたしました。就寝時に使用する冷感マットなど、今後新たな主力製品としての成長を見込んでおります。

当第3四半期連結累計期間における連結業績は、以下のとおりとなりました。

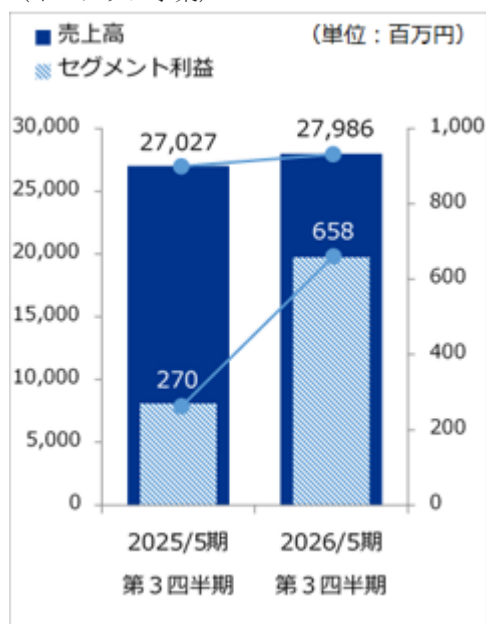


売上高は、自動車・車両内装事業において、北中米拠点で前期に立ち上がったフロアカーペットが売上高に貢献したほか、鉄道・バス向けの内装材需要に的確に対応したことに加え、インテリア事業において、スペース デザイン ビジネスが大きく伸長したことなどから、前年同期比3.1%増の79億91百万円となりました。営業利益は、自動車メーカーからの生産計画変動に伴う生産効率悪化などの影響を受け、同11.8%減の13億15百万円となりました。経常利益は、営業外損益として前年同期に計上した為替差損が為替差益に転じたことから、同48.4%増の16億23百万円となりました。一方、特別損益において、前年同期に計上した投資有価証券売却益が剥落したことに加え、法人税等及び非支配株主に帰属する四半期純利益が増加した結果、親会社株主に帰属する四半期純損失30百万円（前年同期 親会社株主に帰属する四半期純利益85百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

セグメント	売上高		セグメント利益	
	金額（百万円）	前年同期比（%）	金額（百万円）	前年同期比（%）
インテリア事業	27,986	+3.5	658	+143.3
自動車・車両内装事業	48,639	+3.1	2,150	△24.0
機能資材事業	2,101	△2.3	51	—
その他	364	△0.2	92	+50.2
小計	79,091	+3.1	2,953	△3.9
調整額	—	—	△1,638	—
合計	79,091	+3.1	1,315	△11.8

(インテリア事業)



業務用カーペットの納入物件数が増加し、「空間」全体をデザインするスペース デザイン ビジネスの売上も寄与したことなどから、売上高は前年同期比3.5%増の279億86百万円となりました。また、原材料・エネルギー価格の高止まりを踏まえ前期に実施したタイルカーペットや壁紙の価格改定効果などにより、セグメント利益は同143.3%増の6億58百万円となりました。

業務用カーペットでは、水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS® (エコス)」の、資源を未来へつなげるというブランド価値訴求の継続により納入物件数が増加しました。また、積み重ねた技術力と信用力を背景にハイブランドショップ向けのロールカーペットの受注も堅調に推移したことなどから、売上高は前年同期比7.4%増となりました。

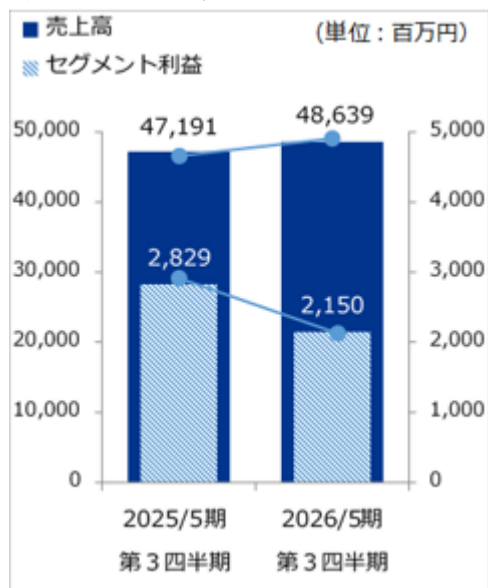
家庭用カーペットでは、2025年6月に発売した、職人技と最新技術で織り上げたオーダーラグシリーズ「Epilogue (エピローグ)」の販売が貢献した一方、市況低迷による販売競争の激化などの影響により、売上高は同6.5%減となりました。

カーテンでは、一般家庭向け「U Life (ユーライフ) カーテンVol. 11」の販売が伸長したものの、2025年7月に発売した一般家庭向け「mode S (モードエス) カーテンVol. 11」が伸び悩んだほか、医療・福祉・教育施設向けの販売も低調に推移したことなどから、売上高は同4.9%減となりました。

壁装関連では、壁紙の価格改定効果に加え、遮熱性・防犯性を備えたウインドウフィルムの販売貢献により、売上高は同3.3%増となりました。

スペース デザイン ビジネスでは、複数の大型商業施設向けの内装などの堅調な受注により、売上高は同7.5%増となりました。

## (自動車・車両内装事業)

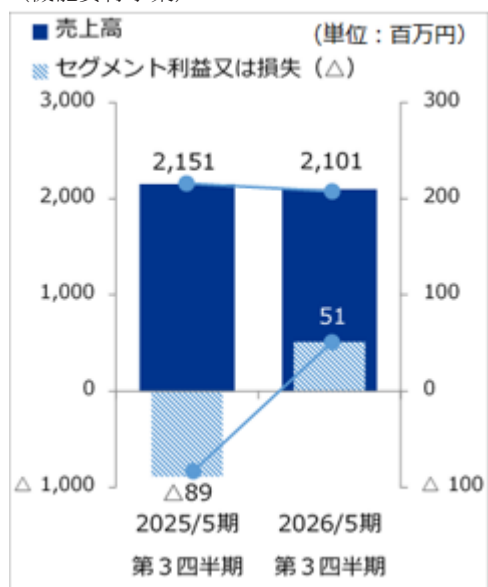


自動車関連において、北中米拠点で前期に立ち上がったフロアカーペットが売上高に貢献したほか、当社グループ間での連携で着実に鉄道やバスの生産回復需要を取り込んだことにより、自動車・車両内装事業全体の売上高は前年同期比3.1%増の486億39百万円となりました。セグメント利益は、北中米拠点での生産効率悪化が影響し、同24.0%減の21億50百万円となりました。

自動車関連では、当社グループ受注車種の生産台数が堅調に推移したことや、一部車種の新モデルへの切り替え前の駆け込み需要などにより、国内の売上高は前年同期比1.4%増となりました。海外では、中国拠点において日系自動車メーカーの生産縮小の影響を受けました。一方、北中米拠点では、販促活動が奏功しカーマットやフロアカーペットの販売が堅調に推移しました。さらに、東南アジア拠点では、各国の社会経済情勢により日系自動車メーカーの販売台数が低迷しているなか、新規車種の立ち上がり寄与し、海外の売上高は同3.6%増となりました。

車両関連では、顧客ニーズに柔軟に対応できる製販一体体制を活かし、コロナ禍で延期されていた鉄道リニューアル工事を含む受注の増加に対応したことから、鉄道向けの売上高は前年同期を上回りました。バス向け内装材においても、路線バスや高速バスに加え、インバウンドの増加に伴い回復する観光バスの需要も着実に取り込んだことから堅調に推移し、車両関連全体での売上高は前年同期を上回りました。

## (機能資材事業)



主力製品であるホットカーペットなどの家電関連商材は、近年の暖冬影響が継続しているものの新規受注数は前年同期並みを維持していることに加え、新たな春夏向けアイテムのラインナップ追加により売上高は前年同期を上回りました。消臭・フィルター関連は、空気清浄機向けフィルター及び自動開閉式ゴミ箱向けのフィルターが堅調に推移し、売上高は前年同期を上回りました。一方、浴室床材は、主要得意先の生産体制変更による一部モデルの転注の影響と在庫数低減活動により出荷数が減少したことから、売上高は前年同期を下回りました。また、使用済みペットボトルを原料としたポリエステル長繊維「スミトロン®」など一部機能材の販売が低調に推移したことなどから、機能資材事業全体の売上高は前年同期比2.3%減の21億1百万円となりました。利益面では、採算性向上を目的としたベトナム工場の生産体制再編などが奏功し、セグメント利益は51百万円（前年同期 セグメント損失89百万円）となりました。

（2）当四半期連結累計期間の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、投資有価証券や現金及び預金の増加等により、前連結会計年度末に比べ15億86百万円増加し、965億63百万円となりました。

負債につきましては、電子記録債務の減少等により、前連結会計年度末に比べ9億13百万円減少し、569億円となりました。

純資産につきましては、その他有価証券評価差額金の増加等により、前連結会計年度末に比べ24億99百万円増加し、396億63百万円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点の業績動向を踏まえ、2025年7月11日に公表しました2026年5月期通期の連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日公表の「2026年5月期通期業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,847	10,558
受取手形、売掛金及び契約資産	15,976	14,366
電子記録債権	9,423	9,097
商品及び製品	9,962	9,768
仕掛品	2,568	2,485
原材料及び貯蔵品	4,565	4,647
その他	3,648	3,280
貸倒引当金	△61	△17
流動資産合計	54,931	54,186
固定資産		
有形固定資産		
土地	15,669	15,726
その他（純額）	15,706	16,133
有形固定資産合計	31,376	31,860
無形固定資産		
無形固定資産	1,605	1,542
投資その他の資産		
繰延税金資産	1,173	739
その他	6,027	8,372
貸倒引当金	△136	△138
投資その他の資産合計	7,064	8,973
固定資産合計	40,045	42,376
資産合計	94,976	96,563

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年2月28日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,678	9,836
電子記録債務	10,940	9,298
短期借入金	13,995	16,370
1年内償還予定の社債	1,000	—
未払法人税等	761	328
その他	5,229	4,767
流動負債合計	42,606	40,602
固定負債		
長期借入金	5,929	6,364
繰延税金負債	342	844
役員退職慰労引当金	44	50
退職給付に係る負債	3,713	3,559
その他	5,176	5,479
固定負債合計	15,206	16,297
負債合計	57,813	56,900
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	9,554	9,554
資本剰余金	2,388	2,383
利益剰余金	12,358	11,760
自己株式	△2,976	△2,945
株主資本合計	21,324	20,752
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,341	3,025
繰延ヘッジ損益	△7	8
土地再評価差額金	6,192	6,192
為替換算調整勘定	2,316	3,089
退職給付に係る調整累計額	13	21
その他の包括利益累計額合計	9,856	12,336
非支配株主持分	5,981	6,573
純資産合計	37,163	39,663
負債純資産合計	94,976	96,563

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2024年6月1日 至2025年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自2025年6月1日 至2026年2月28日)
売上高	76,735	79,091
売上原価	60,654	63,003
売上総利益	16,080	16,088
販売費及び一般管理費	14,590	14,772
営業利益	1,490	1,315
営業外収益		
受取利息	23	27
受取配当金	93	84
為替差益	—	275
不動産賃貸料	307	203
その他	153	195
営業外収益合計	577	786
営業外費用		
支払利息	255	327
為替差損	350	—
不動産賃貸費用	60	27
その他	308	123
営業外費用合計	974	478
経常利益	1,093	1,623
特別利益		
固定資産売却益	63	2
投資有価証券売却益	310	16
関係会社清算益	—	46
災害に伴う受取保険金	—	63
関係会社株式売却損失引当金戻入額	75	—
特別利益合計	449	129
特別損失		
固定資産除売却損	22	6
投資有価証券評価損	26	—
災害損失	—	60
関係会社清算損	14	—
特別損失合計	63	67
税金等調整前四半期純利益	1,479	1,685
法人税、住民税及び事業税	752	893
法人税等調整額	82	187
法人税等合計	834	1,080
四半期純利益	645	604
非支配株主に帰属する四半期純利益	559	634
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	85	△30

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年6月1日 至 2025年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年6月1日 至 2026年2月28日)
四半期純利益	645	604
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△329	1,684
繰延ヘッジ損益	△1	15
為替換算調整勘定	498	968
退職給付に係る調整額	11	7
その他の包括利益合計	178	2,675
四半期包括利益	823	3,280
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	184	2,449
非支配株主に係る四半期包括利益	638	830

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業的前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間において、蘇州住江織物有限公司の清算が終了したことにより、連結の範囲から除外しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年6月1日 至 2025年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年6月1日 至 2026年2月28日)
減価償却費	1,656百万円	1,831百万円

## (セグメント情報)

## I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年6月1日 至 2025年2月28日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	インテリア 事業	自動車・ 車両内装 事業	機能資材 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	27,027	47,191	2,151	76,370	365	76,735	—	76,735
セグメント間の内部 売上高又は振替高	610	20	86	716	98	815	△815	—
計	27,637	47,211	2,237	77,087	463	77,550	△815	76,735
セグメント利益 又は損失(△)	270	2,829	△89	3,010	61	3,072	△1,582	1,490

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物性・性能検査業等であります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,582百万円には、セグメント間取引消去28百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,611百万円が含まれております。

全社費用は、報告セグメントに帰属しない管理部門及び研究開発部門に係る費用等であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性がないため、記載を省略しております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年6月1日 至 2026年2月28日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	インテリア 事業	自動車・ 車両内装 事業	機能資材 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	27,986	48,639	2,101	78,727	364	79,091	—	79,091
セグメント間の内部 売上高又は振替高	637	3	74	714	121	836	△836	—
計	28,624	48,642	2,175	79,442	486	79,928	△836	79,091
セグメント利益	658	2,150	51	2,860	92	2,953	△1,638	1,315

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物性・性能検査業等であります。

2 セグメント利益の調整額△1,638百万円には、セグメント間取引消去3百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,641百万円が含まれております。

全社費用は、報告セグメントに帰属しない管理部門及び研究開発部門に係る費用等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性がないため、記載を省略しております。